

# 山梨県郡内地域における呼吸リハビリテーションの 現状と課題

河 戸 誠 司<sup>1)</sup>

## Current status and issues of pulmonary rehabilitation in Yamanashi prefecture county region

KAWATO Seiji

### 抄 録

〔目的〕山梨県郡内地域の呼吸リハビリテーション（以下、呼吸リハ）の現状を把握し、今後の課題について検討した。〔対象および方法〕内部障害セミナー in 健大への参加者28名に対してアンケートを行い、対象者の特性および所属施設の呼吸リハ勉強会の現状、勉強会参加地域・情報源について調査した。〔結果〕平均臨床経験年数は $7.4 \pm 6.0$ 年であり、3学会合同呼吸療法認定士の取得者は3名であった。呼吸リハ勉強会は全ての施設において開催されておらず、呼吸リハの指導者がいないことが主な未実施の理由であった。また、勉強会参加地域は、甲府市、関東地域、東北地方、北海道であり、勉強会開催の情報源は主にインターネットであった。〔考察〕呼吸リハに対する興味・関心があるにも関わらず、郡内地域において勉強会は開催されていないため、今後は呼吸リハの指導者育成が必要と思われた。

キーワード：山梨県郡内地域

呼吸リハビリテーション

勉強会

アンケート調査

1) 健康科学大学健康科学部理学療法学科

## はじめに

平成 24 年 8 月に発表された山梨県の高齢者福祉基礎調査<sup>1)</sup>によると、総人口に対する 65 歳以上の割合は 24.7% (214,765 人) であり、内閣府から公表された平成 25 年版高齢社会白書<sup>2)</sup>による全国平均 (総人口に対する割合 24.1%) と比較すると山梨県も高齢化率が進んでいることがわかる。健康科学大学の所在する山梨県南都留郡の高齢化率は 20.7% であり、北都留郡においては 43.2% と郡内地域の高齢化率は今後もさらに進むと思われる。

呼吸リハビリテーション (以下、呼吸リハ) の主な対象疾患となる慢性閉塞性肺疾患 (以下、Chronic Obstructive Pulmonary Disease : COPD) は 40 歳以上の日本人の約 530 万人が罹患していると報告されており<sup>3)</sup>、世界各国において 1990 年に COPD は 6 番目の死因とされていたが、2020 年までには 3 番目になることが予想されている<sup>4) 5)</sup>。また、COPD の主な危険因子は喫煙であるが、肺機能の年齢的低下も関与していることが挙げられており<sup>6)</sup>、高齢化率の進む山梨県郡内地域においても呼吸リハ対象疾患となる COPD 患者を考慮すべきと考えられる。

そこで、平成 25 年 3 月より『内部障害セミナー in 健大』として呼吸リハを中心とした勉強会を開催し、山梨県郡内地域 (富士吉田市、都留市、大月市、南都留郡、北都留郡) のリハビリテーション科 (部) および看護部に所属する臨床スタッフを対象として 9 施設、20 部署へ案内状を送付し参加を求めた。本研究調査の目的は、内部障害セミナーへの参加者に対して所属施設における呼吸リハ勉強会の実施状況および呼吸リハ勉強会の参加地域および情報源を調査し、今後の課題について検討することである。

## 対象および方法

平成 25 年 4 月に『内部障害セミナー in 健大』へ参加した 28 名 (10 施設) を対象とし、質問紙表にて自己記載式アンケートを集合法にて実施し、その場で回収を行い回収率は 100% であった。対象者の性別は男性 14 名、女性 14 名、年齢は 20 代 17 名、30 代 8 名、40 代 3 名であった。職種内訳は理学療法士 18 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 2 名、看護師 4 名であった。尚、施設情報については、同施設からの回答と判断できたものは施設単位で集計し、各個人の認識の違いにより回答が異なると予想された項目に関しては、個人単位で集計を行った。また、郡内地域外からの参加者アンケート結果は除外をした。

倫理的配慮に関してアンケート調査用紙配布時に目的を十分に説明し、回答の有無により不利益にならないことを口頭で説明した上で、同意した参加者のみ回答するように依頼をした。また、本研究は健康科学大学の研究倫理委員会の承認 (承認番号 : 第 14 号) を得て行った。

表1 調査内容

1. 対象者の特性	1-1) 臨床経験年数
	1-2) 勤務施設の特性
	1-3) 内部障害系認定士の有無
2. 呼吸リハ勉強会の現状	2-1) 施設内における実施の有無
	2-2) 未実施理由
3. 呼吸リハ勉強会の情報源	3-1) 勉強会への参加地域
	3-2) 勉強会開催の情報源

## 調査内容

対象者の特性および所属施設における呼吸リハ勉強会の現状、勉強会の情報源について、表1の項目を調査した。

## 結果

### 〔対象者の特性〕

内部障害セミナーへの参加者の平均臨床経験年数は7.4 ± 6.0年であり、最低経験年数は1年目、最高経験年数は21年目であった(図1)。各施設の特性として治療対象の病期内訳は、急性期が62%、回復期12%、維持期13%、介護保険サービス事業所13%であった(図2)。また、各種学会より認定される内部障害系認定士(3学会合同呼吸療法認定士(呼吸)、心臓リハビリテーション指導士(心臓)、日本糖尿病療養指導士(代謝))の取得状況は3学会合同呼吸療法認定士のみ3名(12%)であり(図3)、取得者の経験年数は10年目、13年目、19年目であった。

### 〔各施設における呼吸リハ勉強会の現状〕

呼吸リハ勉強会の開催の有無に関して、全ての施設において開催されておらず、唯一1施設のみ年1回代謝系勉強会を実施するのみであった。また、勉強会の未実施理由として呼吸リハの指導者がいない48%、対象疾患がいない28%、病院内で勉強会自体が少ない24%であった(図4)。

### 〔呼吸リハ勉強会の参加地域および情報源〕

呼吸リハ勉強会への参加地域は、臨床経験10年以上の理学療法士に関しては自己研鑽目的のために甲府市以外の関東地域、東北地方、北海道の他県であった(図5)。また、勉強会の開催情報源は各所属する県士会ホームページ39%もしくはインターネット情報39%

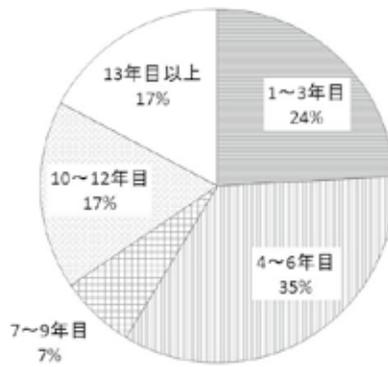


図1 臨床経験年数

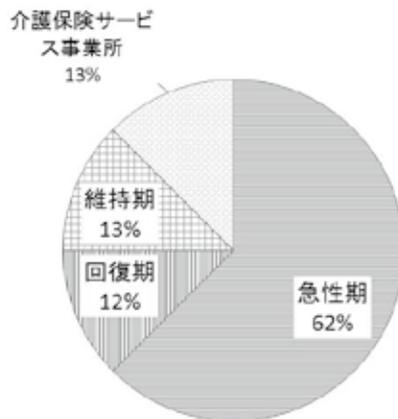


図2 施設特性

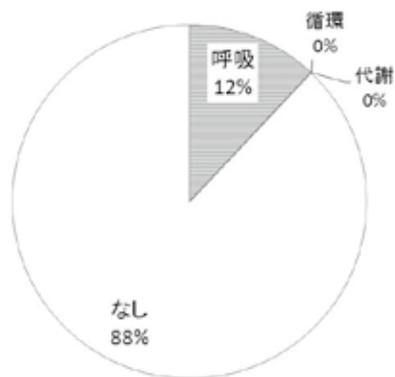


図3 各種認定資格の取得状況

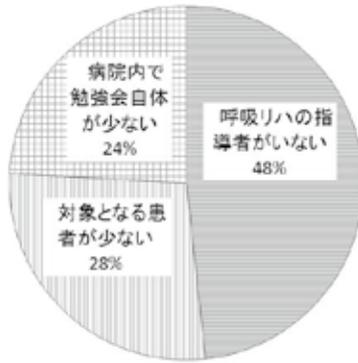


図4 呼吸リハ勉強会の未実施理由

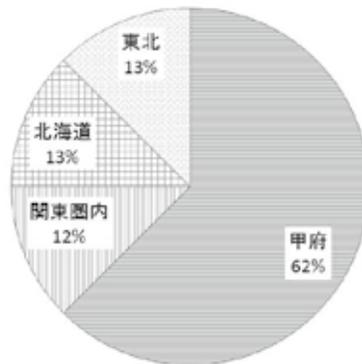


図5 呼吸リハ勉強会への参加地域

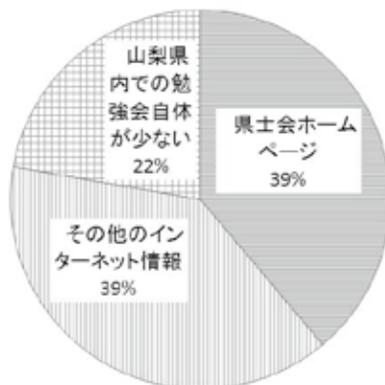


図6 呼吸リハ勉強会の開催情報源

であり、山梨県内での勉強会自体も開催が少なく情報源がないと感じている参加者も22%であった(図6)。

## 考察

山梨県における医療スタッフを対象とした呼吸リハビリ勉強会は、平成5年より呼吸器内科医、看護師、理学療法士、酸素業者が中心となり山梨県呼吸ケア研究会として年2回定期開催されている。また、平成23年度より健康科学大学および帝京科学大学、甲府市周辺病院の理学療法士により山梨県内部障害理学療法研究会が発足され、年2回の定期開催されており、著者は2研究会の運営スタッフとして平成24年度より活動を行っている。また、開催場所は主に甲府市内であり、比較的甲府市周辺病院からの参加が多いのが現状である。山梨県郡内地域より甲府市周辺の勉強会開催場所まで自家用車を利用して約1.0～1.5時間の移動時間を要するため、郡内地域の各施設に勤務をしている臨床スタッフにとってはこの2研究会への参加は時間的余裕がないのが現状と思われる。

そこで、平成25年3月より郡内地域の理学療法士が勤務する10施設に対して、リハビリテーション科(部)(10部署)および看護部(6部署)に案内状を送付して『内部障害セミナーin健大』を主宰して勉強会を行った。年間スケジュールは呼吸リハビリテーションの総論から各論までの12項目とし(表2)、毎月第3週金曜日を定期開催日として実施した。本セミナーへの参加登録者は、計61名(理学療法士38名、作業療法士11名、言語聴覚士3名、看護師9名)であり、性別:男性25名、女性36名、平均経験年数:7.0±6.1歳であつ

表2 勉強会年間スケジュール

### 平成25年

- 
- 3月 呼吸リハビリテーションー総論ー
  - 4月 バイタルサインの見方
  - 5月 呼吸評価ー総論(視診・聴診・触診・打診)
  - 6月 呼吸評価ー実際(視診・聴診・触診・打診)～実技～
  - 7月 呼吸評価ー実際(視診・聴診・触診・打診)～実技～
  - 8月 呼吸介助法
  - 9月 排痰援助と体位ドレナージ ～実技～
  - 10月 胸部画像の見方
  - 11月 人工呼吸管理中の理学療法
  - 12月 ー開催なしー

### 平成26年

- 
- 1月 NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)ーデモ機使用ー
  - 2月 在宅酸素療法ーデモ機使用ー
  - 3月 気管内挿管・気管切開チューブについて

た。また参加登録者の内、案内状を送付していない8施設（甲府市：2施設、西八代郡：1施設、笛吹市：3施設、神奈川県：2施設）から11名の参加登録があり、郡内地域外においても呼吸リハへの興味・関心があるものと思われた。参加者の本セミナーへの目的は、自己研鑽および臨床業務における患者還元であった（表3）。

本研究調査は本セミナーの第2回目に参加をした者に対してアンケート調査を行い、郡内地域の現状を把握するとともに今後の課題について検討を行った。

参加者特性として、臨床経験1～6年目の参加者が約6割を占めており呼吸リハへの知識・技術を習得したいと考えている臨床スタッフがいる一方、平均経験年数は約7年目であり最高経験年数21年目の理学療法に熟達した方が参加していることから郡内地域における呼吸リハの知識・技術の伝達が必要と思われた。また、内部障害系認定士は主に3学会合同呼吸療法認定士や心臓リハビリテーション指導士、日本糖尿病療養指導士があり、どの職種でも取得することが可能であるが、3学会合同呼吸療法認定士を取得している参加者にとっては、知識はあるものの臨床場面において知識の利用や技術の習得には至っていないとの意見も聞かれ、その中には「呼吸リハに自信を持ちたい」と自由記載する参加者もみられた。さらに、各施設内における呼吸リハ勉強会の開催はなく、その理由として施設内勉強会が少ないことが理由として挙げられていたが呼吸リハの指導者がいないことが第1の原因と思われ、郡内地域には各施設において知識・技術指導が可能な臨床スタッフの育成が必要と思われた。他県（長崎県<sup>7)</sup>：1998年、広島県<sup>8)</sup>：2002年、青森県<sup>9)</sup>：2005年）における呼吸リハの現状についての報告によると、呼吸リハの普及には学校教育から卒後教育を充実させ、指導者育成が必要とされており、山梨県郡内地域においては他県と比べても指導者育成まで至っておらず呼吸リハの普及も遅れているのが現状と思われた。

呼吸リハ勉強会への参加地域は甲府市内が最も多く、次いで県外へ知識・技術の習得へ

表3 内部障害セミナーへの参加目的

自己研鑽	
呼吸リハの知識・実践を学ぶため	4名
呼吸・循環に興味がある	4名
自己学習のため	3名
勉強する機会がないため	2名
呼吸リハに自信を持ちたい	1名
患者還元	
臨床で使える知識・技術を身につけたい	4名
他施設の対応方法を学ぶため	1名
療養患者のための排痰方法を知りたい	1名
COPD患者が多いため	1名
老年期の患者様が多く内部障害を合併しているため	1名

行く臨床経験10年目以上の参加者が数名みられ、郡内地域における指導者の育成が今後の郡内地域の呼吸リハの発展には欠かせない課題と思われた。

作業療法士・言語聴覚士の参加者は各々4名、2名であり、理学療法士のみならず呼吸リハへの知識・技術の習得に関心があることが分かり、特に作業療法士の2名は甲府市内および神奈川県からの参加者が含まれていた。本大学教育においても作業療法学科での内部障害系科目の単位認定はなく、卒後教育のみで知識・技術の習得をしていかなければならないことも今後の課題と思われた。

今後の郡内地域における呼吸リハの普及のためには、『内部障害セミナーin健大』の継続的な開催は必須であり、卒後教育の充実および臨床経験10年目以上を対象とした技術指導者の育成および呼吸リハへ興味・関心がある若手療法士の継続的な育成が必要と思われた。また、内部障害セミナーが指導者育成の役割を担う勉強会になりうるかどうか、参加者への継続的なアンケート調査を実施し検討することも必要である。

## 引用文献

---

- 1) [http://www.pref.yamanashi.jp/chouju/documents/h25\\_kisotyousa\\_gaiyou.pdf](http://www.pref.yamanashi.jp/chouju/documents/h25_kisotyousa_gaiyou.pdf) (平成25年11月8日現在)
- 2) <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/zenbun/pdf/1s1s.pdf> (平成25年11月8日現在)
- 3) Fukuchi Y, Nishimura M, et al.: COPD in Japan: the Nippon COPD Epidemiology study. *Respirology* 9 (4): 458-465, 2004.
- 4) Christopher J L Murray, Alan D Lopez, et al.: Alternative projections of mortality and disability by cause 1990-2020: Global Burden of Disease Study. *Lancet* 349: 1498-1504, 1997.
- 5) A.D. Lopez, K.Shibuya, et al.: Chronic obstructive pulmonary disease:current burden and future projections. *Eur Respir J* 27: 397-412, 2006.
- 6) National Heart Lung and Blood Institute and World Health Organisation (NHLBI/WHO). Global strategy for the diagnosis, management, and prevention of chronic obstructive pulmonary disease. *Am J Respir Crit Care Med* 163: 1256-1276, 2001.
- 7) 高良 勝, 他: 呼吸リハビリテーションと呼吸理学療法の現状. 長崎大学医療短大紀要, 12: 49-51, 1998.
- 8) 田平 一行, 他: 呼吸理学療法の現状 広島県におけるアンケート調査から. 理学療法学, 29 (2): 126, 2002.
- 9) 土橋 真由美, 他: 青森県における呼吸リハビリテーションの現状- 2手法で行ったアンケート調査から -. 東北理学療法学, 17: 38-43, 2005.

## Abstract

〔Purpose〕 To assess the current state of pulmonary rehabilitation practice in Gunnai area, the eastern part of Yamanashi Prefecture, and to determine future challenges that this area faces. 〔Subjects and Methods〕 A survey was conducted, targeting 28 participants in the Internal Dysfunction Seminar at Health Science University. It is designed to investigate the participants' characteristics, the current practice of the workshops in their affiliated facilities, the locations where such workshops were held, and information sources of workshop schedule. 〔Results〕 Participants' average years of clinical experience was  $7.4 \pm 6.0$  years. Three participants were Certified Respiratory Therapists, authorized by the Three Society Joint Committee. It was found that the workshops for pulmonary rehabilitation were not organized in any facilities, mainly due to lack of the trainers (instructors). The workshop locations where these participants attended were Kofu, Kanto, Tohoku, and Hokkaido. The participants get the schedule information on the Internet. 〔Discussion〕 Despite the participants' interests and concerns regarding pulmonary (or respiratory) rehabilitation, workshops are not presently organized in this area. The study suggests that it is necessary to train instructors who could organize and lead the workshops in pulmonary rehabilitation.

Key words : Gunnai area

Pulmonary Rehabilitation

Workshop

Survey questionnaire

